■日常点検

2～3日ごとに点検してください。

点検項目	方法	点検内容
負荷電流	電流計	銘板記載の定格電流以内であること
騒音	聴感	異常音（ガタゴト温、周期音）がないこと ※軸受部に聴音棒を当てて異常音を確認する
振動	触感	ギアケース、モータフレームの異常振動がないこと
表面温度	温度計	日常の温度よりも急激に上がったり下がったりしていないこと
グリース漏れ	目視	ケース、オイルシール、ブラケット等の接合部から漏れていないこと

■定期点検

8時間/日運転を想定します。

点検項目	点検目安	点検内容
据え付けボルト	半年	スパナでゆるみ確認 ゆるんでいた場合は増し締めしてください
チェーン及びVベルト	半年	張り具合の確認 ゆるみすぎ、張りすぎの場合は調整してください
モータの絶縁抵抗	半年	絶縁抵抗計で測定 測定電圧500Vの時、1MΩ以上であること
ギャップ量（ブレーキ）	1年または ブレーキ使用回数 100～150万回	ギャップ限界値以下であることを確認 点検・調整方法は次のページの調整方法を参照して行ってください

※点検にて異常が認められた場合は、「10.故障と原因と対策」を参照して対策処置を行ってください。

■ブレーキ仕様

標準形（ブレーキ型式：B2、B4、J2、J4）

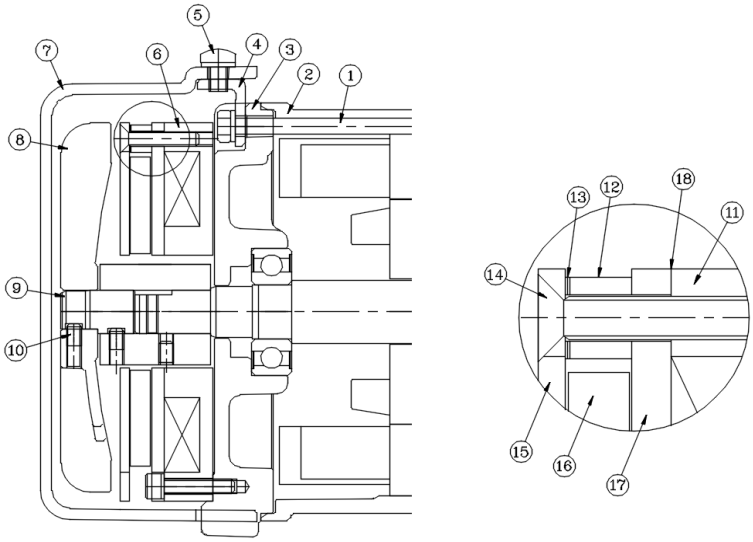
容量	ブレーキ電源	ブレーキ電源	制動トルク	ギャップ[mm]			推奨締付	ネジ
[kW]	AC電圧[V]	DC電圧[V]	[N・m]	初期	限界	調整可能	トルク[N・m]	サイズ
0.1	200 (400)	90 (180)	1.0	0.05～0.20	0.4	0.3	2.1～2.3	M4
0.2			1.96	0.05～0.20	0.4	0.3	2.1～2.3	M4
0.4			3.92	0.05～0.25	0.4	0.35	2.1～2.3	M4
0.75			7.35	0.05～0.25	0.45	0.4	2.1～2.3	M4
1.5			14.7	0.05～0.25	0.55	0.5	6.9～7.6	M6
2.2			21.6	0.05～0.25	0.55	0.5	6.9～7.6	M6

防水形 IP65（ブレーキ型式：V2、V4）

容量	ブレーキ電源	ブレーキ電源	制動トルク	ギャップ[mm]			推奨締付	ネジ
[kW]	AC電圧[V]	DC電圧[V]	[N・m]	初期	限界	調整可能	トルク[N・m]	サイズ
0.1	200 (400)	90 (180)	1.0	0.05～0.15	0.45	0.4	2.1～2.3	M4
0.2			1.96	0.05～0.15	0.45	0.4	2.1～2.3	M4
0.4			3.92	0.05～0.15	0.45	0.4	2.1～2.3	M4
0.75			7.35	0.05～0.15	0.5	0.4	2.1～2.3	M4

■ブレーキ構造

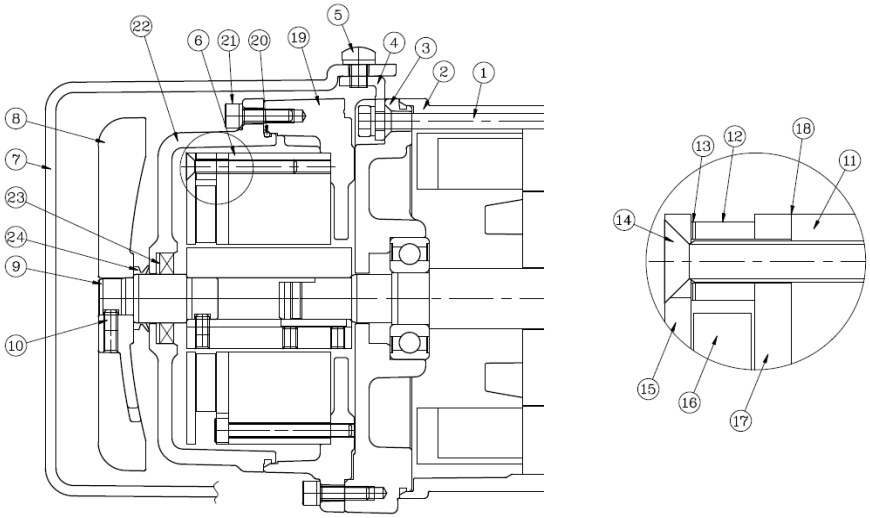
標準形 (ブレーキ型式：B2、B4、J2、J4)



①	通しボルト
②	モータフレーム
③	ブラケット
④	ステー
⑤	ファンカバー止めねじ
⑥	ブレーキ
⑦	ファンカバー
⑧	ファン
⑨	継ぎシャフト
⑩	ファン止めねじ
⑪	マグネットASSY
⑫	カラー
⑬	シム
⑭	皿ねじ
⑮	プレート
⑯	ディスク
⑰	アーマチュア
⑱	ギャップ

※ 0.1kWは全閉自冷形のため、ファンがありません。

防水形 IP65 (ブレーキ型式：V2、V4)



①	通しボルト
②	モータフレーム
③	ブラケット
④	ステー
⑤	ファンカバー止めねじ
⑥	ブレーキ
⑦	ファンカバー
⑧	ファン
⑨	継ぎシャフト
⑩	ファン止めねじ
⑪	マグネットASSY
⑫	カラー
⑬	シム
⑭	皿ねじ
⑮	プレート
⑯	ディスク
⑰	アーマチュア
⑱	ギャップ
⑲	スペーサ
⑳	Oリング
㉑	カバー固定ボルト
㉒	ブレーキカバー
㉓	オイルシール
㉔	Vリング

※ 防水形0.1kW全閉自冷形のため、ファンカバー、ファン、Vリングがありません。

■ブレーキギャップの点検方法

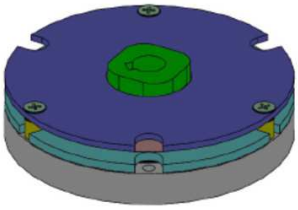
(1) ⑤ファンカバー止めねじを緩めて、⑦ファンカバーを取り外す。
防水形の場合、⑩ファン止めねじを緩めて、⑧ファンおよび㉔Vリングを取り外してください。
次に、㉑カバー固定ボルトを緩めて㉒ブレーキカバーを取り外してください。
※ ㉓オイルシールが傷つくと防水機能を損なう恐れがあります。取り外す際は注意してください

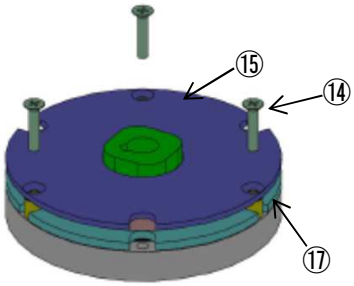
(2) ⑪マグネットASSYと⑰アーマチュア間の⑱ギャップが、ギャップ限界値以下であることをスキミゲージなどで確認。
注) 必ず電源を切った状態で行ってください。

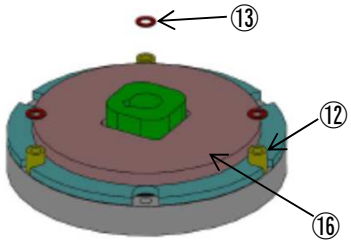
■ブレーキギャップの調整

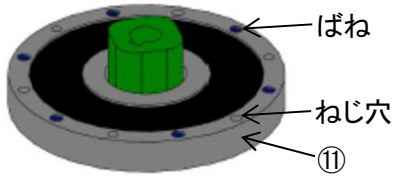
ブレーキを長期間使用してディスクが摩耗し、⑪マグネットASSYと、⑰アーマチュア間の⑱ギャップが、
ブレーキ仕様に記載のギャップ限界値を超えますと、動作不良または解放不能となりますので、
下記の手順でブレーキギャップの調整を行ってください。
ギャップ限界値を超えていなくても、ギャップ調整可能値以上であれば、ブレーキギャップの調整を行うことができます。
ブレーキギャップの調整を行うことができるのは1回のみです。
注）ギャップ調整可能値以下の場合はブレーキギャップの調整を行わないでください。動作不良の恐れがあります。

<ギャップ調整手順>









・標準形ブレーキの場合
(1) ⑤ファンカバー止めねじを緩めて、⑦ファンカバーを取り外す。
(2) 無通電状態でブレーキのギャップが、
「■ブレーキ仕様」のギャップ調整可能値以上であることを確認する。
(3) ⑩ファン止めねじを緩めて、⑧ファンを取り外す。
※ 0.1kWはファンがありません。

・防水形ブレーキの場合
(1) ⑤ファンカバー止めねじを緩めて、⑦ファンカバーを取り外す。
次に、⑩ファン止めねじを緩めて、⑧ファンおよび㉔Vリングを取り外す。
※ 0.1kWはファンカバー、ファンおよびVリングがありません。
(2) ㉑カバー固定ボルトを緩めて㉒ブレーキカバーを取り外す。
※ オイルシールが傷つくと防水機能を損なう恐れがあります。
取り外す際は注意してください。
(3) 無通電状態でブレーキのギャップが、
「■ブレーキ仕様」のギャップ調整可能値以上であることを確認する。

・共通
(4) 摩耗粉をエアーガンで除去する。
※ ギャップは無通電状態での⑪マグネットASSYと
⑰アーマチュアの間の空隙です。
(5) ⑭皿ねじを取り外す
(6) ねじ部の付着物を清掃する。
※ ねじに傷等が見られた場合は、新品に交換のこと。
(7) ⑮プレートを取り外す。
※ 各部品の摩擦面は汚さないように注意のこと。
※ 各摩擦面に傷等の異常がないか確認のこと。
(8) ⑬シムを全て抜き取る。
(9) ⑫カラー、⑯ディスク、⑰アーマチュアを取り外し、⑪マグネットASSYに
付着した摩耗粉をエアーガンで清掃する。
※ ばねを紛失しないように注意のこと。
(10) ⑪マグネットASSYのねじ穴をエアーガンで清掃する。
※ 清掃後、ねじの通り具合を確認のこと。
(11) ねじ緩み止め接着剤をねじ穴に塗布する。
(推奨接着剤：Henkel製ロックタイト243)
(12) シム以外の部品を元の位置に戻し、⑭皿ねじを締め付ける。
※ 締付トルクは、「■ブレーキ仕様」の推奨締付トルクを参照のこと。
(13) ⑱ブレーキギャップが、「■ブレーキ仕様」のギャップ初期値の範囲内か確認する。
(14) ブレーキの動作確認（ブレーキ解放/ブレーキ作動）を行う。